



世界遺産を目指す神の島『沖ノ島』も、大島村から宗像市へ。



三月二十八日 宗像市・大島村合併 新『宗像市』誕生 宗像大社三宮全て宗像市へ

4月祭事暦

- 春季大祭**
- 4月1日 午前11時 大祭 (低子奉幣、主基地方風俗舞、浦安舞)
 - 4月2日 午前11時 総社祭 (献上若布採取者表彰) 午前11時40分 交通安全講話 高宮祭 第二宮祭・第三宮祭 宗像護国神社春祭 午後2時 献茶祭 (南坊流小方社中)
 - 4月15日 午前10時 月次祭 高宮祭 第二宮・第三宮祭 引き続き 宗像護国神社遷拝 午前11時 豊栄舞 奉奏
 - 4月23日 午前11時 沖・中両宮春季大祭 於=大島・中津宮
 - 4月29日 午前11時 引き続き 昭和祭 宗像大社奨学金受給生奉告祭

三月二十八日宗像市と大島村が合併し、新『宗像市』が誕生しました。皆様、ご周知の通り、当大社は本局を置く『辺津宮』、大島の『中津宮』、沖ノ島の『沖津宮』の三宮から成っております。しかしながら、行政区画上では、辺津宮が宗像市、沖・中津宮が大島村でした。しかし、今回の合併により、いよいよ行政区画上でも三宮とも宗像市となります。今月号では、宗像市長の原田慎太郎氏、前大島村長の河辺健治氏に合併後の想いと今後の展望を含めた御挨拶を賜っております。

新『宗像市』発足

新たなまちづくりへ

宗像市長 原田 慎太郎



三月二十八日に宗像市と大島村が合併し、新しい宗像市が誕生しました。宗像地区は古代から悠久の歴史を持つ宗像大社を中心として発展し、今日でもお互いが強い絆を持ち、一体となった住民の生活圏が形成されています。大島村との合併により、辺津宮・中津宮・沖津宮の宗像大社三宮と行政区域が一体となり、今後のまちづくりの可能性が更に広がるものと考えられています。宗像の歴史を語り、宗像大社を抜きにしては語れず、

まさに宗像のシンボリックな存在でもあります。平成十七年度は、新生『宗像市』としての第一歩を踏み出す大事な一年となります。今後十年間の市政運営の基本となる『総

「天気晴朗ナレドモ波高シ。皇国の興廢、此の一戦に在り」で有名な東郷平八郎元帥率いる日本連合艦隊が露国バルチック艦隊を破り、日露戦争に勝利を治めてから今年百周年を迎える。この勝利は、永らく欧米諸国の植民地とされた亜細亜諸国に独立への希望を与えた記念すべきものであった。

又、乃木希典大将は旅順戦で破った敵将ステッテルの助命嘆願書露国皇帝に送り、世界から喝采を浴びた。更に私の故郷宮崎出身の小村寿太郎は、特命全權大使としてポーツマス条約を締結した外交官である。

だが、現在歴史教育の現場では、此れ等の名前は余り重要視されていない。「偉人教育は、差別を助長する」からだそうである。事実我々が学生時代に読まれた偉人伝は、ガンジー・ヘレケラーワシントン等という類の物ばかりであった。

今年には四年に一度の中学校歴史教科書採択の年である。何としても正當な歴史観に基いた歴史教科書を一校でも多く採択させねばならない。歴史的事象をただ知識として教えるのではなく、その歴史の中で生きた人間の苦悩等を教えていく、そういう血の通った歴史教育が郷土、そして自国に対する愛情や誇りというものを育むのではないだろうか。(S.N)



神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番

本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)~4番
(075)343-3341番

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567

海への回帰

宗像市から沖合遙か、大島から沖ノ島へ続き、玄界灘を更に水平線に向かう北への長い指向線は、かつて宗像海人族が海を渡っていた大陸への道のり、「海北道中」でもありません。

この道すじの自治体が合併することは、神郡と言われ、一つの心にとまっていた昔、すなわち世界への

像市・大島村合併協定書調印式



互い手を携える原田市長と、河辺前大島村長

宗像大社を心のよりどころとしてきた我々大島村民は、沖ノ島を畏敬し、大切に守り続けて来ました。一本一草も持ち出してはならない。との教えは、父も祖父も厳しく守っておりました。特に祖父は帆をかけた小船で、大島から朝鮮までサワラを釣りに出かけていたそうです。まだ動力さえない時代に、この海峡を自由に行き来していた航海術が、つい戦前まで継承されていたのです。現代の、人工衛星などの航海計器に慣れたわれわれには、驚嘆としかいいようがありません。

また、辺津宮の社前に懸かるしめ縄は、大島の氏子役員総出で作り、田島に奉納していることはあまり知られていないでしょう。村民は 入学や卒業式には親子ともに中津宮に参拝してその成長を報告感謝し、春秋の沖中両宮の大祭には大勢の人々が参拝します。連綿と続く素朴な信仰であり、生活と切り離せない一体の民俗とも言えるでしょう。このように三宮を一つのものとして捉えて、大島の氏子たちは崇敬を続けてきました。

現役時代の祖父は漁から帰ると必ず献魚をお宮に上げていました。私も使いにやられ、魚を入れた竹の籠を下げて、長いお宮の階段を上った覚えがあります。晩年の祖父はお宮に参拝する事を日課とし、氏子の役員も努めておりました。その又父親も、役員をしていたと聞いております。

私自身の話しをさせて頂けば、お宮は小さい頃からずいぶんなじみの深いものでした。よく祖父に連れられて田島にもお参りをし、お宮に泊まった事もあります。大勢の大人に混じって、その会話を興味深く聞いたりしたものでした。信仰心篤い祖父は宮地嶽にも参り、当時珍しい黒塗りの自動車で神湊まで送ってもらったこともあります。

さて、大島村が宗像市と合併し、いよいよ新しい行政のかたちが始まります。ここままとした合併準備の事務は、気の遠くなるほどの道のりだった事でしょう。ここまで漕ぎ着けた大島村、宗像市両方の担当職員のご苦労に對して、改めて感謝を申し上げます。さらに今後、大島のため、宗像の為に活躍され

る事をお願い致します。この三つの社が一つの行政区に所属することとなったことは、実に喜ばしい限りです。今後、関係の深い旧宗像郡がまとまり、更に福岡都市圏の中核の位置を占めて大きな広がりを見せる事も、時代の要求かと考えます。世界の中で今後最も発展の可能性が高いと言われる、アジアの国々との交流の拠点として、又地理的な要衝としても、千年の回帰を経てこの宗像が大社とともに、限りなく発展を遂げることを願ってやみません。



旧大島村長 河辺 健治



宗像大社上空より大島を望む

氏八満神社で

『芳名板』除幕式、『狛犬』清祓

一連の事業の全てを完了する



清祓後の除幕では一同笑みがこぼれ拍手が鳴り響いた

奉告祭に引き続き、狛犬の清祓と芳名板の清祓が行われ、参列者全員で除幕を行った。

この度の神社改築にあたっては、在郷の皆様には永年に亘る浄財の積立をしていただき、現在故郷を離れている田島区出身者にも浄財を募り完成したもので、この一大事業を顕彰すると共に御神慮をお慰めすべく建立された。

この祭典をもって氏八満神社の本殿・拝殿改築工事、一連の神事の全てが終了した。

田島区の氏神として崇敬される氏八満神社の芳名板・狛犬清祓建立報告祭並びに除幕式が二月二十七日(日)午前十一時、高向権宮司奉仕のもと、氏八満神社改築建設委員会吉武正行委員長を始め関係者が参列し斎行された。

本殿・拝殿改築工事の記念事業の最後の神事として行われ、拝殿正面に御影石の狛犬一対と、参道階段入口に芳名板が建立された。



氏貞公墓前祭



法要での式

氏貞公を埋葬した占部一族の方々、地元上八今門区の皆様、当大社高向権宮司と神職一名が参列ししめやかに執り行われた。

祭典後、今門公民館で直会が催され、戦国乱世にこの神郡宗像を守り抜いた郷土の英雄の遺徳を偲び、この墓前祭・法会を子々孫々まで受け継いでいくことを誓った。

宗像氏貞公は、室町時代末期に活躍した第八〇代宗像大社大宮司。周防国黒川(現山口市)で生をうけ、幼少時に宗像家に養子として迎えられ、神郡宗像を毛利・大友・竜造寺ら近隣の勢力から守り抜いた。

現在、重文の本・拝殿(辺津宮)、中津宮(大島)の本殿を再建し、神郡内の社寺建立にも尽力され、郡民から厚い崇敬を受けたが、天正十三年(一五八六)四十二歳の若さでこの世を去った。公の死は、当時大友勢と敵対していたためその死は秘密にされ、亡骸は夜中密かに現在の地に埋葬したという。

公に嫡子がなかった為、神代から続く宗像大宮司家は、豊臣秀吉の命によりここで断絶。以後、その御神威を遍く知られた宗像大社も次第に衰微していった。



参列は、宗像家々臣の占部家所縁の人々と、地元上八今門地区の方々



読経される承福寺 埜村住職



手を合わす高向権宮司

宗像からオリンピック選手を 『塚原体操館』宗像市に落成

三月六日、宗像市光岡の総合商業施設内に、オリンピック三大会で五個の金メダルを取った塚原光男さんが校長を務める『塚原体操スクー

ル宗像』の体操館が完成し、当日午前十時、この日は折からの寒波襲来で、外は一面の銀世界となる中、体操館中央に齋場が設けられ、関係者二十名が参列のもと、落成式の神



左から、模範演技を披露した塚原直也、中野大輔、石坂真奈美、大島杏子の4選手

事が斎行された。修祓、降神の儀、祝詞が奏上され、続いて四方祓の儀が、また体操器具の清祓が行われた。最後に塚原校長、塚原直也選手、石坂真奈美選手、大島杏子選手が玉串を捧げ、『塚原体操館』の隆昌と安全を祈念された。同日午後一時からは、同氏の長男で先のアテネ五輪で金メダルを取



アテネ五輪表彰式(右の2人が、模範演技に来られた塚原・中野両選手)



熱心に見つめる来館者



塚原体操館外観

つた塚原直也選手ら日本代表四選手が、吊り輪や平行棒、段違い平行棒、平均台、鉄棒などで華麗な模範演技を見せ、詰め掛けた約二〇〇人の市民は着地が決まる度に大きな拍手を贈っていた。塚原さんは「私が苦勞して考案した『月面宙返り』も、今では中学生がしてしまう。みんなも練習すれば出来るようになるよ。」と解説し、「体操を通して子供の健全育成と、将来のオリンピック選手の発掘に取り組みたい」と語っていた。

体操館は鋼板ぶきテント張力幕屋根二階建て、延べ約八九〇平方メートル。この体操館建設は、塚原さんの想いに、この総合商業施設の敷地を有し、『地域に何か貢献したい』という、(株)玉屋が応え実現した。

同体操スクールは四月一日に開校し、幼児年少・年長、小学生男・女子、選手の五コースがある。将来、宗像から将来のオリンピック選手が輩出されるかもしれません。同スクールの今後益々の弥栄をお祈り申し上げます。

演技を披露した日本代表四選手

塚原直也選手(二十七歳・朝日生命)

アテネ五輪団体総合金メダル

中野大輔選手(二十二歳・九州共立大)

アテネ五輪団体総合金メダル

石坂真奈美選手

(十八歳・朝日生命体操クラブ)

アテネ五輪出場

大島杏子選手

(十八歳・朝日生命体操クラブ)

アテネ五輪出場



塚原選手の演技



石坂選手の演技

平成17年・日本海々戦100周年 沖津宮現地大祭の御案内

本年は、沖ノ島近海で明治38年に行われた『日本海々戦』から100周年となります。この意義ある年に、恒例の『沖津宮現地大祭』を皆様と共に渡島し、斎行致します。

下記、要項で参加者を募集致しますので、参拝御希望の方はお申し込み下さい。

沖津宮現地大祭要項

- ① 参拝者は沖津宮奉賛会費として1名につき、100周年記念奉賛金を含めて**20,000円**お納め頂きます。
- ② 参拝御希望の方は、当大社より『参拝申し込み書』をお取り寄せ頂き、**4月30日迄(必着)**に社務所まで御返送下さい。
- ③ 沖ノ島渡島前日の5月26日(木)午後6時迄に中津宮(筑前大島)に到着し、受付を済ませ、渡島安全祈願祭に御参列していただきます。(祭典後、各班ごとに説明会を行います)
- ④ 5月27日(金)午前6時に大島港を出港。
 - ・沖ノ島到着後、直ちに海水で禊をして頂きます(ふんどしの使用不可)。
 - ・祭典は午前10時の予定です。
 - ・午後1時、沖ノ島を出港し、大島着島は午後4時の予定です。
- ⑤ 大島・神湊間のフェリー最終便は午後6時です。
- ⑥ 海上模様等で沖ノ島渡島が中止になった場合は、大島の沖津宮遥拝所で祭典を斎行致します。
- ⑦ 乗船者数に制限がありますので、定員を超える場合には御遠慮願います。
- ⑧ 年令70才以上の方は、関係筋の通達により御遠慮願います。尚、長時間の乗船に耐えられない方や、健康状態が良好でない方も御遠慮願います。
- ⑨ 申し込み者には、受付後参加の諾否を葉書で御通知申し上げます。

沖津宮参拝心得

- ① 遊山・魚釣等を目的とし、釣具類を持参しての乗船は固く禁止します。
もし違反があれば乗船をお断り致します。
- ② 沖ノ島上陸の際は、古例により海水で禊をし、心身を清める事。
- ③ 御神水以外は、一木一草一石たりとも持ち帰る事を禁止します。
- ④ 厳重なる掟がある為、婦女子の参拝は固くお断わり致します。
大島での宿泊につきましては、当大社ではお世話しかねます。参考要項に同封の、大島の旅館・民宿のパンフレットを御参照の上、各自で直接予約願います。
申込書・参拝心得・参拝要項等を用意しておりますので、返信用切手を同封の上、下記宛までお申し込み下さい。

申し込み先

〒811-3505 福岡県宗像市田島2331
宗像大社社務所 祭儀部『沖津宮現地大祭』係
TEL (0940) 62-1311 (代表)
FAX (//) 62-1315



中津宮(大島)での渡島安全祈願祭(前日の26日)



海中での禊



沖津宮(沖ノ島)での現地大祭(27日)



船上から見た沖ノ島



沖ノ島沖の夕焼け

(続)

宗の寄物

191

いしいただし



二月五日から三月一三日まで、福岡県立美術館で「よみがえる明治絵画、修復された矢田一嘯『蒙古襲来絵図展』」が行われていたが、それを観てきた。たしか三〇年ほど前、この絵図を浮羽の日蓮宗本仏寺で観たことがあるが、その絵の迫力に圧倒され、「元寇と言えば、その絵図が浮んでくるほど印象深いものであった。」

今回の展示は平成一四年から行われていた、本仏寺蔵の絵画修復が完成したのを機に、記念としての企画展示で、矢田のその他の絵画や関係資料等約六〇点が展示された。本仏寺蔵のものは昭和三六年、福岡県有形民俗文化財に指定されている。

年譜によると、矢田一嘯は幕末の安政五年(一八五八)に横浜で生まれ、幕末から明治の激動期を少年時代に体験している。



代に体験している。画家を志し、画風も和風から洋風に転じ、明治五年(一八八二)二五歳の時に渡米し、見聞を広め、帰国後は「活人画」と呼ばれる演劇的見世物の背景制作を手がけた。さらに明治二三年、本邦初のパノラマ館『上野パノラマ館』で戊辰戦争を取材したパノラマ画を描いて

好評を博した。パノラマ館とは戦争を描いた大画面を円筒状の建物内部に巡らせた施設で、入場した観衆は戦場の臨場感を味わい楽しむものである。矢田はその後熊本に来て、明治七年、九州初の「九州パノラマ館」で西南戦争の画を描き、その年の暮れには福岡に移り住む。その福岡は元寇古戦場でもあり、元寇記念碑建設の運動が行われており、それに賛同した矢田は、多くの元寇図を描き、また明治三五年日蓮聖人銅像台座のレリーフの原図作成もしている。明治四二年頃に描かれた本仏寺蔵の蒙古襲来絵図一四点もある。大正二年(一九一三)五六歳で胃癌のため九大付属病院で没。(よみがえる明治絵画より)

展示の絵図は、どれも迫力がある。七百年前の元寇の様子を、恐らく『蒙古襲来絵詞』を参考にして描いたであろうが、「強調された遠近法や俯瞰的な構図」を駆使し、矢田の類いまれな想像力と多くのパノラマ画を描いてきた豊富な経

験が一体となって、まさに七〇〇年前の現場に立って、見てきたような凄まじい戦闘場面が展開されている。

その白眉は「博多上陸」である。彼我の怒号乱れ飛び、銅羅、太鼓矢の唸り、剣戟の響き、轟音と閃光のつはうが炸裂。

絵の中央海側に元軍側の兵士、太砲状のものを据え付け発射している図も描かれている。画面中央の人物が、竹崎季長らしく、馬上から抜して切り込んでいる姿があり、

その前面に、元兵の壁、短弓をつがえ狙い射っている。元寇の絵でこれほど迫力あるものはない。



編集部からのお知らせ

購読料納入のお願い

年度始めです。社報「宗像」の購読料をお納めいただきますようお願い申し上げます。対象者は、一般の購読者(贈呈者、現役の氏子会、評議員他役員を除く)の皆様で、今月号に振り込み用紙を同封させていただきます。

尚、既に複数年お支払いいただいた方は、納入いただいた年数がかかるまで振り込み用紙はお入れ致しません。

「宗像」編集の為、皆様の御奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

購読料 年間送料共 一、〇〇〇円

神宝館休館のお知らせ

宗像大社「神宝館」では、展示替え作業に伴い、左記の通り、休館致します。

四月二十五日(月) ~ 四月二十八日(木)まで

御迷惑をお掛け致しますが、御理解の程よろしくお願い申し上げます。

第五二四回

宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切



玄海の西日がまともに照らしある庭の白梅やや濁りたり

(評) 海の夕日を受け本来は美しかるべき梅。「やや濁りたり」に作者の屈折した心情が見える。

宗像市 朝野 藤井 浩子

たまさかの息子の電話に声のトーン聞きわけて社運推し測りをり

(評) 東京で会社の経営されていると聞く息子さん。会社のこと、子のことが、片時も離れない母親である。

浮羽郡 浮羽 向 則正

わが歌がラジオに読まれ録音のテープを友が送りくれたり

(評) 他的一首「戦死せし父を詠みたるわが歌を部屋に飾りてときどき見つむ」と共に、歌を作る喜び、友のある喜びがこのような形で現われることも、短歌の功德の一つである。友人も巻き込んでの精進を祈る。

福津市 中央 中村 勇

この日課何時まで続くか食事ごと薬飲むなり二人揃って

(評) 二人揃っているからこそ尊い貴重な服薬である。

宗像市 大島 越智 治子

孤島にて一人家守る身なれども島のくらしは心豊けし

(評) 東京在住の私の師、宮英子さん(八十八歳)は

ひっそりと住むといへどもわれは持つ山の野葡萄その実その蔓と詠んでいる。いづれも一人暮らしに負けない心意気が見える。

宗像市 日の里 大和 美由紀

床の間の壺に白梅投入れて客を迎へる座敷整ふ

(評) 大和さんは客を迎えもてなすための活け花、前記の宮英子さんは藍ふかきベルシヤの壺をとり出して蔓ながら野葡萄を贅沢に活けむと詠み、宮英子さんは自分自身の鎮魂のためであろう。二首共優しい心があつての歌である。

福岡市 南区 井田 有久衣

旅先で友となり得し若き人の幸せ願ひ賀状をしたたむ

宗像市 大井 木原 ふさ子

何処にか梅の匂へる坂を来て鄙びし御寺の山門くぐる

宗像市 日の里 石松 弘次

そこばくの豆を撒き終え冷えし夜をオベ終えし義兄に思いを馳せる

宗像市 大島 杉田 れい子

鈴祓い受けつつ願う病床の兄の窓辺に響きとどけと

宗像市 東旭丘 天野 玲子

山うどに露に菜の花並べられ野菜売場は春の薫りす

宗像市 田野 森 甲子

日の丸の旗軒に掲げ氏神に友と語りぬ建国記念日

福津市 中央 池浦 千鶴子

降る雪は地上に降りてそここの芥包みてしばし憩へり

宗像市 田野 森 つるの

日本海海戦記念碑に近き東郷神社に参詣をする

宗像市 田熊 有田 ゆり子

信号を待つ小学生靴よりケータイ取り出し耳に当てたり

福津市 光陽台 香月 照子

病室に東風は吹かねど白梅の香りほのかに春を待たれる

宗像市 光岡 白土 凌一

急ぐとも心静かに手をそえて外にもらすな白玉の露

宗像市 池田 森 龍子

冬の陽は温み及ばぬ奥の間の廊下を伝ひ障子に揺らぐ



三千首あまりの高校生の歌選ぶと読むに恋のうた多し
バイトしてお金の尊さ知ると詠む一首は隣の選者がおとす
老いし今 牛の歩みでなど言へず小島なおの歌見ればなほさら

宗像大社歌会 俳句作品集(四九九)

宗像市 光岡 白土 凌一

水仙の芽をふきたるや春近し

宗像市 光岡 井上 嘉治

梅一輪帽子に差して退院す

宗像市 東郷 田中 憲象

ポール蹴り寒九の雨に群がりぬ

宗像市 日の里 花田いつ枝

筑前に静の碑あり草萌ゆる

宗像市 東郷 宗風社俳句会

大勢の避難生活水柱伸ぶ

吉田 湧水

限りなき昔話しや炉火燃ゆる

吉田 杏子

死とは何生とは何ぞ除夜の鐘

三浦美千代

春潮の脹らみに乗る繁き舟

田中 雨葉

路の躑躅けおるやも雨続く

木原 房子

編集後記

昨年のノーベル平和賞受賞者ケニアのワンガリ・マタイさんが、国連会議の場で日本語の「もったいない」について演説されていたのをテレビで観ました。▼同氏は今年二月の来日時に、この言葉を知られたようですが、もったいないの言葉や考えを世界に広げよと訴え、一回「MOTTAINAI」を大合唱していました▼漢字で書くこと勿体無い「と書き、その物の値打ちが生かされず、無駄になるのが惜しい」という意で、英語をはじめ外国語にはなく、日本語だけの言葉だけだぞとたです▼ともすれば「貧乏性」とも考えられがちですが、日本人の「MOTTAINAI」の精神がこの世界を変えるかもしれません(M.O.)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 ジーエータップ
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円